

## 消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

## 【事例概要について】

● ●

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	救急活動時におけるエクスチェンジストレッチャーの扱いについて
3. 体験した事例の中心的要素	救急活動時、メインストレッチャーに乗せた傷病者を救急車内へ収容しようと移動したところ、不安定となり、ストレッチャーごと転倒の危険を感じた。具体的には救急隊員2名がメインストレッチャーの頭部側、足側に1名ずつについて曳航して段差を超えるようとしたが、その際2名でメインストレッチャーを少し持ち上げて横方向に僅かだが移動しようとした。その後にストレッチャーのタイヤが段差に引っ掛かり不安定となつた。
4. 体験した事例の原因・理由	やむを得なく持ち上げての横移動を強いられる場合もあるが一度ストレッチャーの高さを低く設定してから持ち上げる等の措置を講じることが必要であったと思う。数センチもない段差をクリアするために横着してしまったからだと思う。

## 【体験した事例の直接的原因について】

● ●

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

## 【体験した事例について】

● ●

1. 発生日時	平成 19 年 12 月 0 日 午後 0 時頃
2. 発生した当時の天候	わからない
3. 発生した活動現場	屋外：傷病者宅から救急車までの間で、細かい砂利が敷いてある路地。
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させた。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか)	転倒
7. 事例体験時の活動	救急、現場活動中期 [ ]
8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか	車両への収容、搬送法
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	これまでに1, 2回程度体験している。

#### 10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[32]歳、勤続年数[14]年、現場経験年数[13]年、階級[消防士長]、同様の活動[頻繁]、任務[機関員]
○当事者B	年齢[21]歳、勤続年数[1]年、現場経験年数[0]年、階級[消防士]、同様の活動[過去に1,2回程]、任務[隊員]
○当事者C	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ]、同様の活動[ ]、任務[ ]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

#### 11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	傷病者を乗せたメインストレッチャーを当事者Bと曳航していたところ不安定となり、転倒の危険を感じた。	
経過2	当事者B	傷病者を乗せたメインストレッチャーを当事者Aと曳航していたところ不安定となり、転倒の危険を感じた。	
経過3			
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

#### 【その事例発生時の状況について】

● ●

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか?

ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか?

危険情報を把握、予見できた。集中力、注意力があった。足元の安全が確保できていた。たまたま、事故にならなかつた。

#### ○心理・体調について

##### a. あせりを感じていた

- |                                       |     |
|---------------------------------------|-----|
| ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 | いいえ |
| ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。         | いいえ |
| ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。              | いいえ |

##### b. 注意力が欠如していた

- |                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。       | はい  |
| ・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。 | いいえ |

・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。

いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躊躇したり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた（適切な指示を与えられなかつた）。

・活動指示が得られなかつた。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があつた。

はい：慣れから来る慢心のような物があつたと思われる。
----------------------------

【事故発生後の取り組みについて】

.....

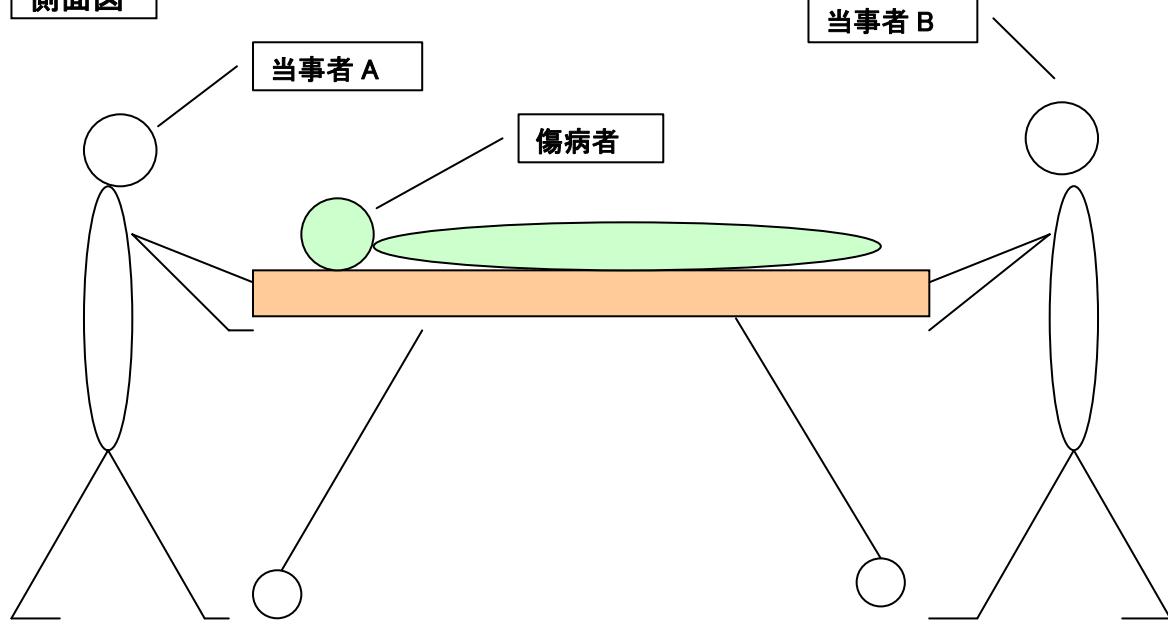
○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

側面図



上から

